

令和5年度 学校評価（後期）

伊予市立下灘小学校（令和5年12月）

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割以上達成 C:8割未満の達成

【評価基準】 ◎:8割以上が肯定 ○:6割以上が肯定 △:6割未満が肯定

重点目標	番号	評価指標 及び 目標値 ※ 目標値は、教職員・児童・保護者の肯定率が、80%以上が肯定である。	評価			学校による考察・改善方策	対象	達成評価			肯定率			集計結果(後期)							
			R 4 後	R 5 前	R 5 後			R 4 後	R 5 前	R 5 後	R 4 後	R 5 前	R 5 後	4 大変良い	3 良い	2 あまり良くない	1 良くない				
		学校は楽しい。	A	→	A	児童92%と88%の肯定率であった。先生方のおかげで、子どもたちには学校が楽しく、自分自身の力が伸びた、頑張ったという意識がある。今後は、子どもたちの楽しい、頑張ったという意識が、更なる学力の定着に結び付けていけるような取組を進めていく必要がある。	児童	◎	→	◎	92%	→	92%	73%	19%	0%	8%				
		この学期に自分はがんばった、伸びた、力がついた、成長したと感じる。	A	→	A		児童	◎	→	◎	88%	→	88%	77%	12%	12%	0%	0%			
「しっかりと考える子」を育む	1	本校では、チャイムの合図、次の授業の準備、話を聞く態度等、学習規律や学習態度の定着に努めていますが、あなたのお子さんは、学習規律・学習態度が身に付いていますか。	B	→	A	教職員、児童、保護者いずれも肯定率が80%を超える結果となった。特に、保護者の回答は、前期よりも大きく上昇しており、児童が成長していることが分かる。しかし、教職員においては、前期結果と比較すると、肯定率が大きく下がっている。これは、児童のチャイムの合図で着席や次の授業の準備等が十分でないことを示していると考えられる。今後も、教職員で連携しながら指導を継続したい。	教職員	△	→	◎	→	◎	50%	→	100%	→	83%	17%	67%	17%	0%
							児童	◎	→	◎	→	◎	81%	→	85%	→	81%	38%	42%	19%	0%
							保護者	◎	→	◎	→	◎	93%	→	89%	→	95%	47%	47%	5%	0%
	2	本校では、学習課題を明確にした、分かる授業づくりのための授業改善に努めていますが、あなたのお子さんは、文章を読み取ったり、読み取った内容や自分の考えを主体的に表現しようとしていたりしていますか。（参観日の授業や家庭での会話などから）	B	→	A	教職員、児童、保護者いずれも肯定率が80%を超える結果となった。特に、保護者の回答は、前期よりも上昇しており、授業改善の成果が表れていることが分かる。しかし、教職員においては、前期結果と比較すると、肯定率が大きく下がっている。2学期は、各学級で授業研究を実施し、分かる授業を追求する機会を設定したが、肯定率が下がってしまった。今後も、教職員で協力しながら授業研究に努め、児童にとって分かる授業を提供したいと思う。	教職員	◎	→	◎	→	◎	83%	→	100%	→	83%	50%	33%	17%	0%
							児童	◎	→	◎	→	◎	87%	→	89%	→	85%	62%	23%	8%	8%
							保護者	○	→	◎	→	◎	67%	→	83%	→	89%	32%	58%	11%	0%
	3	本校では、朝読書の時間を設けたり、児童会「図書委員会」から読書の楽しさを伝えたりして読書活動を推奨していますが、あなたのお子さんは、読書に親んでいますか。	B	→	C	教職員の肯定率は前期より上がっているが、児童・保護者の肯定率はほとんど変わっていない。児童の本に対する興味は高まっているが、日常的に本に親しんだり、読書習慣が定着したりするまでには至っていないようだ。2学期は読書週間には、児童が様々なジャンルの本に興味を持つことができるように図書委員会が読書ビンゴを企画した。また、今年度も、愛媛県立図書館の貸し出し図書サービス「まなぼん」を活用して、様々な本に親しむことができる機会を増やしている。今後もこのような取組を続け、日常的な読書習慣につなげていきたい。	教職員	◎	→	△	→	○	83%	→	60%	→	67%	17%	50%	33%	0%
							児童	◎	→	◎	→	○	80%	→	81%	→	77%	50%	27%	8%	15%
							保護者	○	→	○	→	○	68%	→	67%	→	63%	37%	26%	26%	11%
	4	本校では、ステップ学習や学んだことを振り返る機会を確保し、一人一人の実態に応じた学力の定着に努めていますが、あなたのお子さんは、学校で学習したことが身に付いていると思いますか。	A	→	A	教職員、保護者ともに高い肯定率となった。これは、毎朝取り組む「じゅくりタイム」や毎週金曜日実施している反復学習の時間「ぴかぴかタイム」の成果が表れているのだと考える。今後も継続し、児童の学力向上に努めていく。	教職員	◎	→	◎	→	◎	100%	→	100%	→	100%	67%	33%	0%	0%
							児童														
							保護者	◎	→	◎	→	◎	80%	→	100%	→	95%	47%	47%	5%	0%
「もくもくとがんばる子」を育む	5	あなたのお子さんは、早寝・早起き・朝ご飯を心掛け、食後の歯磨きなど望ましい生活習慣が身に付いていますか。	A	→	A	教職員、児童、保護者いずれも肯定率が80%を超える結果となった。特に、保護者の回答は、100%と高い肯定率となっている。生活リズムチェックカードや、冬休みの歯みがきカードで家庭と連携して、生活を振り返っている。全体的に良い生活習慣が身に付いているが、個人差もあり、児童の振り返りの中に、メディアとのつきあい方もふくめて、さらに生活習慣を改善したいと感じている様子もある。児童一人一人が望ましい生活習慣を意識して元気に生活できるように、今後も、自分の生活の振り返りを通して支援していきたい。	教職員	◎	→	◎	→	◎	100%	→	100%	→	83%	33%	50%	17%	0%
							児童	◎	→	◎	→	◎	84%	→	85%	→	85%	73%	12%	4%	12%
							保護者	◎	→	◎	→	◎	100%	→	94%	→	100%	63%	37%	0%	0%
	6	本校では、登下校指導や学級活動等を通して、安全教養に努めましたが、あなたのお子さんは、登下校や遊びなど、いろいろな場面で、安全に注意して行動していますか。	A	→	A	登下校や学級活動を通して、子どもたちが安全な学校生活を送れるような支援・指導がされている。地域の方の登下校時の見守りのおかげで、児童自身が交通安全等に意識できている。児童の自己評価が落ちているのは、児童の危機意識が育ち、自分たちの周りに危険があるかもしれないという目で生活できるようになり、自分に厳しく評価したためと思われる。今後、児童自身が安全な遊び方の判断できるように指導していく必要がある。そして、児童自身が、安全かどうかを判断して、互いに注意し合いながら学校生活を送れるようになるとよいと考える。	教職員	◎	→	◎	→	◎	83%	→	100%	→	100%	50%	50%	0%	0%
							児童	◎	→	◎	→	◎	97%	→	93%	→	81%	65%	15%	4%	15%
							保護者	◎	→	◎	→	◎	100%	→	94%	→	100%	58%	42%	0%	0%
	7	本校では、体育科の授業の充実及び、外遊びや IT スタジアムへの参加による体力づくりに努めています。あなたのお子さんの体力は向上していると思いますか。	A	→	A	教職員、児童、保護者とも、肯定率が80%を超えている。各クラスでITスタジアムの種目に積極的に取り組み、体力の向上が見られる。寒い中でも、サッカーや遊具で遊ぶなど外遊びをして、体力づくりに励んでいる児童が多い。寒くなり、外で体を動かすことに抵抗がある児童や、持久走などの苦手な分野がある児童などがおり、若干評価が落ちていると考えられる。体育科の授業を充実させるとともに、一人一人の児童にあった体力づくりをこれからも指導していく必要がある。	教職員	◎	→	◎	→	◎	100%	→	100%	→	100%	83%	17%	0%	0%
							児童	◎	→	◎	→	◎	90%	→	93%	→	88%	69%	19%	8%	4%
							保護者	◎	→	◎	→	◎	100%	→	94%	→	95%	58%	37%	5%	0%

む	8	本校では、3年生以上の子どもたちが下灘太鼓の練習に一生懸命取り組み、継承・発展に努めています。学校は、伝統や地域を大切にすることを育てていると思いますか。	A → A → A	教職員、保護者とも前期と変わらず、100%の肯定率で、年間を通して、伝統や地域を大切にすることを育てられていることが伺える。児童は85%であり、前期より評価が下がっている。3年生以上が協力合せて下灘太鼓を受け継いでいることは、大きな伝統となっており、誇りに思っている児童が多い。太鼓以外にも、様々な体験活動を通して、さらに地域の方と触れ合い、地域を大切にしようとする思いを引き続き育てていくことが大事である。地域の一人であるという自覚を高めていきたい。	教職員	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	83%	17%	0%	0%
					児童	◎ → ◎ → ◎	97% → 96% → 85%	77%	8%	4%	12%
					保護者	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	68%	32%	0%	0%
「なかよく明るい子」を育む	9	本校では、様々な教育活動を通して人権・同和教育の推進に努めています。あなたのお子さんは、互いの良さを認め合い、支え合う仲間づくりができていますか。	A → A → A	児童は92%の肯定率であった。教職員や保護者は100%の肯定率であった。本校は少人数で複式学級である。27人で児童みんなが顔見知りであり、校内でも顔を合わせる機会が多い分、一度人間関係が崩れてしまうと立て直すことが困難である。家庭(保護者)との連携を密にして、人間関係が悪化する前に対処できるようにしていきたい。自分を良さを知り自分を大切に育てる児童、他者の良さを知り他者も大切に育てる児童の育成を今後も進めていきたい。	教職員	◎ → ◎ → ◎	100% → 80% → 100%	83%	17%	0%	0%
					児童	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 92%	69%	23%	4%	4%
					保護者	◎ → ◎ → ◎	93% → 89% → 95%	37%	58%	5%	0%
	10	本校では、道徳教育の充実に努めています。あなたのお子さんは、思いやりや優しさ、望ましい行動や善悪を判断する力などの道徳性が育っていると思いますか。	A → A → A	教職員、保護者ともに100%の肯定率となった。保護者の回答については、前期と比べ大きく上昇している。これは、道徳科の授業をはじめ、学校生活の中で児童との関わりを大切に、教育相談なども積極的に行った結果だと考える。しかし、児童の回答が前期より大きく下がっている。児童の良いところを見つけ、自己肯定感を高めつつ、思いやりや優しさ、望ましい行動ができるように、今後も指導を続けていきたい。	教職員	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	50%	50%	0%	0%
					児童	◎ → ◎ → ◎	87% → 96% → 81%	65%	15%	15%	4%
					保護者	◎ → ◎ → ◎	94% → 89% → 100%	42%	58%	0%	0%
	11	本校では、児童会「えがおいっぱい委員会」を中心に挨拶運動を推進していますが、あなたのお子さんは、家庭や地域で気持ちのよい挨拶ができていますか。	B → A → A	教職員、保護者ともに100%の肯定率となった。保護者の回答については、前期と比べ上昇している。委員会活動を中心として、自ら進んで挨拶することが浸透していると考えられる。しかし、児童の回答については、前期と比べ大きく下がっている。学校では挨拶できるが、校外で自分から進んで挨拶することが難しいという結果だと考える。今後も委員会を中心に挨拶運動を行いながら、教職員が見本となり、いつでも、どこでも、誰にでも、自分から、進んで挨拶できる児童を育てていきたい。	教職員	△ → ◎ → ◎	50% → 100% → 100%	50%	50%	0%	0%
					児童	◎ → ◎ → ◎	94% → 96% → 81%	69%	12%	15%	4%
					保護者	◎ → ◎ → ◎	94% → 94% → 100%	58%	42%	0%	0%
「だんだんのびる子」を育む	12	本校では、子どもたちが自己肯定感をもてるように、一人一人を大切に指導の充実に努めています。あなたのお子さんは、自分のことを好きで大切だと思えることができますか。	B → B → A	全体的に高い肯定率になっている。小規模校の特質を生かして、一人一人を大切に指導に取り組んでいる。2学期も、1学期に引き続いて、他校の児童との交流や、学校行事、集会等での地域の方との触れ合いの場を設けている。関わりを充実させていく中で、児童の自尊感情が醸成されていくと考える。今後も、教職員が児童一人一人を大切にしながら、温かい人間関係の中で児童が育つことができる環境を作っていく。	教職員	◎ → ◎ → ◎	83% → 100% → 100%	50%	50%	0%	0%
					児童	○ → ○ → ◎	74% → 78% → 88%	50%	38%	12%	0%
					保護者	◎ → ◎ → ◎	87% → 94% → 89%	42%	47%	11%	0%
	13	本校では、学年の発達段階に応じて、相手と自分との関係を意識した敬語や丁寧語についての理解を促し、適切に使うことができるよう指導しています。あなたのお子さんは、時と場に応じた言葉遣いができていますか。	B → B → A	全体的に高い肯定率になっている。児童の実態として、敬語や丁寧語については、日常生活で適切に使うことができている時もあるが、まだ時と場に応じて使うことができていない場面もある。また、相手の気持ちを考え、場に応じた言葉を選ぶことも大切である。2学期は児童が日常生活で使っている相手の気持ちを考えた温かい言葉「ふわふわ言葉」を校内に掲示して可視化した。児童が、適切な言葉を選んで使うことができるように、このような取組を続けて、場面をとらえて実態に合った支援をしていきたい。	教職員	△ → ◎ → ◎	17% → 100% → 100%	17%	83%	0%	0%
					児童	◎ → ◎ → ◎	90% → 89% → 92%	62%	31%	8%	0%
					保護者	◎ → ○ → ◎	100% → 78% → 79%	32%	47%	21%	0%
	14	本校では、心のアンケートの定期的な実施や日常の触れ合いを通して児童理解に努めています。教員は、児童の変化や悩みに適切に対応していると思いますか。	B → A → A	全体的に高い肯定率になっている。特に保護者の回答については100%になっている。2学期も心のアンケートや教育相談を実施して、児童の心の悩みに寄り添っている。全体的に、1学期よりも今年度の学級に慣れて、落ち着いて生活することができているようだ。しかし、一人一人の心の状態は様々であり、中には少数であるが肯定率が低い児童もいる。そのことも受け止め、さらに児童理解と一人一人へのきめ細やかな対応ができるようにしていきたい。	教職員	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 83%	67%	17%	17%	0%
					児童	◎ → ◎ → ◎	81% → 89% → 88%	73%	15%	4%	8%
					保護者	△ → ◎ → ◎	47% → 94% → 100%	53%	47%	0%	0%
管理・運営	15	本校では、避難訓練や防犯訓練、非常時の引き渡し訓練を実施しています。学校は、これらを通して児童に安全対応能力を育てていると思いますか。	A → A → A	教職員・保護者ともに肯定率100%であった。災害はいつ発生するか分からない。自分の命は自分で守る意識が必要である。前期の反省から、後期は避難訓練の日時を知らせずに、訓練を実施したりもした。今後も、実際に災害が発生した場合を想定した避難訓練を計画し、実施していきたい。そして、負傷した児童の治療や市への連絡、保護者へ対応等に冷静に対応できるように訓練を重ねたい。「自分の命は自分で守る」ことを意識して、自分で判断し行動できる児童を育てていきたい。	教職員	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	33%	67%	0%	0%
					児童	◎ → ◎ → ◎	97% → 96% → 92%	81%	12%	4%	4%
					保護者	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	63%	37%	0%	0%
	16	勤務時間・健康管理を意識した働き方の促進に努め、自らの働き方の改善を図っていますか。	B → A → A	肯定率83%であった。超勤時間についてはやや改善が見られる。教育現場での取組には限界があるため、教職員一人一人が自分で意識して、働き方を改善していく必要がある。労力(時間)対効果を判断しながら働く意識を持つ必要がある。	教職員	○ → ◎ → ◎	67% → 80% → 83%	50%	33%	17%	0%
					教職員	○ → ◎ → ◎	67% → 100% → 83%	67%	17%	17%	0%
17	一人一人が自分の役割を自覚し、報告・共通理解・確認を密にしながら、組織として対応していますか。	A → A → A	肯定率83%であった。どのような組織においても「報・連・相」は基本である。後期は意識の違いやすれ違い、勘違い等が時折見られた。教職員が何でも言い合える風通しの良い職場になるように努力したい。	教職員	○ → ◎ → ◎	67% → 100% → 83%	67%	17%	17%	0%	
18	会計事務、情報管理の厳正化や綱紀の保持など、服務規律の遵守に努めていますか。	A → A → A	会計事務や情報管理は、事務担当とも互いにチェックし合い、遺漏がないように行えた。学年末に向けて予算の適切な処理を進めていきたい。不祥事防止のため、定期的に不祥事防止チェックを実施した。常に全体の奉仕者である意識を持てるように職員会等で服務の順守を促していきたい。	教職員	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	67%	33%	0%	0%	